

## 第3週

質問6. そうだとすれば、神は人間を、悪に造りましたか。

答え I 決してそうではありません。神は人間を善に造りました。<sup>01</sup> ご自分の形に従って、<sup>02</sup> 正しく、まことに聖なる者と造りました。<sup>03</sup> それゆえ人間は創造主なる神を正しく知っていて、<sup>04</sup> 神をまことに愛することができ、神を賛美し栄光を帰しながら、<sup>05</sup> 永遠の幸せの中で神と共に生きることができました。

① まして人間は人生の中で罪を学んだのではなく、本性上の罪があるなら、人間本性に悪の原因はどこにあるのかと質問することができます。この質問に対して、時には、愚か者たちは、神が人間を悪に造ったからだと言います。罪の原因が神にあるということです。このように罪人は、常に自分の悲惨さと世界に存在するあらゆる悪に対して責任を神に向け、非難します。しかし、伝道書 7 章 29 節によると「私が見いだした次の事だけに目を留めよ。神は人を正しい者に造られたが、人は多くの理屈を捜し求めたのだ」と語っています。

---

01 創世記 1:31.

02 創世記 1:26-27.

03 エペソ 4:24.

04 コロサイ 3:10.

05 詩 8 篇.

神は人を悪く造ったのではないということです。神は人間をご自分の形にしたがって正しく聖い者に造られたと確かに語っています。神は極めて正しく、聖い方として人を悪に造ってはいません。神は罪と悪を喜ばれる方ではありません（詩5:4）、目はあまりにも聖くて、悪を見ず、裏切り者をながめておられない方です（ハバクク1:13）。一切、神は悪をもって誘惑する方でもありません（ヤコブ1:13）。

神はすべての万物を造り、美しいとされました。そして、特に人間を造られた時には、造る方法も格別で、すべての被造物の中で最も優れた者と造りました。従って人間の罪と悪の原因が、神にあるものではありません。

② 神は人間をご自身の形にしたがって造りました。人間が神の形に造られたというのは、初の間人は神に対する知識をもちながら、その方に対して無知ではなかったという意味です。神を正しく理解することができ、その方を愛することもできました。

また、初の間人は、まことに正しく、聖さを持っていました。それゆえ初の間人は、神に全き心を捧げながら、自分を神に屈服させることができ、神の御心を行うことができました。

そして神の形に造られた人間は、理性的で、徳の高い存在として、すべての被造物を治めることができました。彼は永遠に幸せの中で神と共に生きることが

---

06 動物を造る時には「地が…生き物を生ぜよ。家畜や、はうもの、野の獣を、種類にしたがって。」（創1:24）と仰せられるが、人間の場合は「われわれの形にしたがって人を造り…すべてを治めさせよう。」（創1:26）と仰せられました。

でき、神に賛美と栄光を帰せるように造られました。<sup>07</sup>

③ 神はこのように人間をご自分の形にしたがって造られた理由は、人間は神をほめたたえ、栄光を現わさせるためでした。人間は必ず神を賛美とともに栄誉を現すべきです（ロマ 11:36）。人間は神と交わりながら、神の豊かさを現し、神の御心に従順することで、神の正しさを現さなければなりません。

④ アダムが罪を犯す以前の人間は、このように栄光ある状態でした。神の形に従って造られ、完璧なほどの知恵に満ち、聖く傷も汚れもありませんでした。神により、すべての万物を支配することを委任されるほど十分でした。すべてが豊かで、エデンの園で完璧な喜びを味わえることができました。創造主・神を愛し、永遠の幸せの中で神を賛美しながら生きられました。しかし、アダムの罪によって、このような至高な幸せを失ってしまい、死と苦しみが臨まれるようになりました。神が人間を正しく造られたことと、人間が罪を犯してそのすべて善いものを失ってしまった状態を比較して見るなら、罪がすべてを破壊させ、どれほど酷いものかを悟ることができます。

⑤ 勿論、神は、人間が罪を犯したことで失ってしまった神の形を、回復させ

---

07 しかしこのような神の形は、初めの人、アダムの罪のゆえに全部壊されてしまい、私たちの古い人には、形だけが薄く残っているだけです。それゆえ人間は新しい人を着て、本来造られた形を回復しなければなりません（コロサイ 3:10）。神の形が回復された新しい人は義と真理の聖さが回復されて（エペソ 4:23-24）、神との平安を味わうのです（ロマ 8:6）。また形が回復された新しい人は、知識が回復されているので、神と神の御心について正しく理解し、喜んで従順し、神を賛美し、その方に栄光を帰します。

る方法を用意して置かれました。第二のアダムを通して、神の形の回復を計画なさったのです。私たち人間の邪悪性を取り除き、再び、聖さと正しさの回復を、キリストの中に置きました。神はキリストを通して、知恵と義と聖さと贖いとなさいました（Iコリント1:30）。

それゆえ、キリストに逃れなければなりません。キリストに進み出て行き、人間性を破壊させる悪魔の支配から抜け出なければなりません。キリストは、私たちを悪い者から保護します（IIテサロニケ3:3）。アダムはエデンの園から追放されましたが、第二のアダムは私たちを楽園に招きます。従って、真の人間性の回復は、ただ、第二のアダムによってだけ成し得ます。

**質問7. そうだとすれば、人間本性の腐敗は、どこから来たのですか。**

答え I 私たちの初めの父母であるアダムとエバが、楽園で不従順して墮落したところから来ました。<sup>01</sup> それから私たちの本性は非常に腐敗されてしまい、<sup>02</sup> 私たちは、罪と悪の中で身ごもり、<sup>03</sup> 罪の中から生まれました。

① 神が人間を神の形にしたがって、正しく聖く造られたのなら、人間の強情と悪な性質はどこから来たのかという、質問を持つことができます。それは、私たちの第一の始祖の墮落によることです。それによって、私たちの本性は腐敗

---

01 創3章

02 ロマ5:12、18-19

03 詩51:5

されてしまいました。アダムの墮落について理解するためには、先ず、神とアダムと結ばれた契約を理解しなければなりません。

神はアダムと行い契約を結ばれましたが、アダムは人類の頭として契約の当事者でした。アダムは契約を守ることができました。アダムの理解力と意志は、本来の正しさと共に付与されていたので、アダムは神を知ることができ、神を完全に愛することができ、さらに契約の条件などを移行することができました。このように神は、アダムが神のおことばを聞き従い、神を愛するゆえに、契約を守ることが求められたのです。

神は、エデンの園のすべての木の実を食べて良いが、善悪を知るようにさせる木の実を食べてはならないと禁じました。これは、神さまが人間を苦しめるために、あるいは、罠に落とし入れるために命令なされたものではありません。ただ自分の持っている能力によって戒めを守ること、アダム自身が神を愛し、神に付いていることを見せてあげれば良かったのです。善悪を知るようにさせる木は、ただ、試すための道具だったのです。それにも関わらず、アダムは神の命令に背く行為、つまり、善悪を知るようにさせる木の実を食べたことで契約を破ってしまいました（ホセア6:7）。これが墮落です。

② アダムの罪は決して小さな罪ではありません。単純な一つの罪だと思い「申し訳ございません」ということばで済ませられる罪ではなかったのです。意図的で、凶々しい不従順だったのです。アダムは、創造主より被造物をもっと愛し、神が警告なされた死の危機について軽く考え、約束を破ったのです。彼は命を軽蔑し、自分の恵みあふれる創造主より、悪魔の言葉をさらに信じたのです。アダムは神との交わりを断り、自分の望むものを得るために禁じられたことを行いました。さらに悪魔にだまされて神と同じようになることを願ったのです。

このようなアダムの罪は不義のきずなとなり、人間の性質を直ちに壊してしまいました。アダムの罪は、彼のあらゆる行いに影響を及ぼすことになり、あらゆる悪に偏るようにさせました。つまり、人間にあった神の神的形は完全に損傷されました。彼の知恵は愚かものとなり、彼の正しさは不正なものとなり、彼の聖さは不純なものとなりました。

さらに悪魔の声を聞いて、悪魔を選んだことで、悪魔の性質も持つようになりました。結局、人間は、罪の奴隷として生きて行くしかなくなりました。神の形を失ってしまったことにより、義を行おうとしてもできなくなりました。罪を通して悪魔は罪人を主管するようになりました。人間は実際的に悪魔の奴隷となりました（ヨハネ 8:44、ヘブル 2:14-15）。

③ アダムとエバが犯した罪の結果は、例外なく、自分たちの子孫に及ぼされました（ロマ 5:12）。従って私たちみなは、罪の中で身ごもり、罪の中から生まれました。このような腐敗された本性を原罪と呼びます。<sup>04</sup>なぜなら、腐敗された本性は、私たちの父母から移転されたからです。これをダビデは「ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。」（詩 51:5）と告げたのです。原罪は、私たちの自然的有罪状態を構成します（ロマ 5:12、詩 51:5）。これを原罪の転嫁と呼びます。そして、このような自然的有罪によって人間は本性、御怒りの子らになりました（エペソ 2:3）。

実際的に人間は、罪と悪魔の主管に屈服されるようになり、神の権威に抵抗するようになりました。単純に一つの罪ではなく人間が罪と悪に完全に偏って

---

04 原罪による罪性から、個人が犯す実際的な罪を自犯罪（Actual sins）と呼びます。人は心で罪を犯し、体で罪を犯し、弱くて罪を犯し、無知のゆえ罪を犯し、また、知っていながら意図的に罪を犯します。

しまい、話す言葉、行う事、すべてが罪を構成するようになったのです。それから人間は、永遠の幸せの状態から死の状態に落とされてしまいました。肉体の死は勿論のこと、霊的な死が訪れてしまいました。

④ 原罪から実際的な罪が増加されました。知りながら犯す罪と、無知のゆえに犯す罪とが続けて増加されます。考えと言葉と行動には罪があふれ、神が禁じていることを犯す罪、命令なされたことを移行しない罪等が増加されます（ホセア6:7、ヤコブ4:17）。勿論、意図的に犯す罪もありますが、それは弁明の余地もないものです。

また、弱さのゆえに、あるいは、考えもなく、誘惑に対して気が緩んだゆえに犯す罪もあります。自分自身が直接犯す罪があつて、一方では、他の人の罪と関与して犯す罪もあり、あるいは、他の人の罪を助長する場合があります。これらすべては罪です。一番、深刻で重い罪としては、聖霊を妨害する、冒瀆する罪があります。これには罪の赦しはありません。この場合は、すでに神の真理を経験し理解していたが、真理を捨て、意図的に悪意を持って真理について妨害する場合です（ヘブル6:4-6）。

⑤ アダムのは、すべての人間が生まれながら罪人の状態になるようにしたことです。また彼の墮落は人間を悪にさせました。すべての人間が自然的に罪人であり、嫌悪なほど、腐敗されてしまったことです。このような霊的状态を悟ってこそ、自分自身を知るのです。私たちは生まれながら悲惨の状態であることを悟らなければなりません。この悟りを通して罪人は謙遜になります。

このように自分の状態を悟った時に、それ以上、自分を自慢するような言葉を言わなくなり、自分をたいそうな存在と考える思いを捨てるようになります。今

まで自分の罪と、それによる悲惨さを悟っていないのなら、神の律法を通して聖霊さまの御業が臨まれるように求めるべきです。聖霊の御業があつてこそ自分は悲惨な罪人であることを、かろうじて悟るようになるからです。

**質問 8. 人間がそれほど腐敗されていて、私たちは完全に、どのような善も行うことができず、すべての悪いことだけに偏ってしまったのですか。**

答え I はい。<sup>01</sup> 聖霊によって新生しない限りそうなのです。<sup>02</sup>

① 質問 7 番では、アダムの堕落がすべての人に広まったことに言及し、質問 8 番では、このような腐敗が、すべての人の本性にどれだけ深く影響を及ぼしたのかについて説明しています。人間には、善を行える力や悪に対して抵抗できるどんな力も残ってはいません（ヨハネ 3:6、ロマ 8:7、エペソ 2:5、ロマ 7:14、マタイ 7:16、創 8:21）。自然人は、善について知ることもできません。自ら作った道徳法を持って行動しますが、これは、神の律法と調和を保てないものです（Ⅱコリント 3:5）。

そして、人間が善を行うことができないのは、罪がその人を支配しているからです（エペソ 2:3）。従つて、その人のすべての肢体は罪の奴隷になっているだけでなく（ロマ 6:19）、肉体が罪に慣れ親しんでいて習慣を形成させているのです。

---

01 創 6:5, 8:21、ヨブ記 14:4、イザヤ 53 : 6.

02 ヨハネ 3:3-5.



学んで罪を犯しているのではなく（創8:2、ヨブ14:4）本性自体で罪を犯しています。それゆえ、本性自体が変わらない限り、罪も継続するのです。<sup>03</sup>このような人間は、自分自らを助けたり、回復させることもできず、救うこともできません。罪による無能、それ自体です。<sup>04</sup> ロマ1章18-32節では、このような人間の腐敗性が、歴史の中でどのように現れたのかを良く説明しています。

② それでもある人たちは、自分を喜んで犠牲にし、他人を助けたり、善良な事々を行うのではないかと質問できるでしょう。そして、世の中には悪い人より、良い人が多く住んでいるのではないかと反論を提起することもできます。勿論、自然な状態で外的に良い事業をしたり、良い働きをしたりもします。しかし、そのような良い行いが、神を愛したり、神の栄光のためでなかったなら、真に良い行いとは言えないのです。

つまり、自分の利己的な目的、あるいは、自分の名誉だったり、または、処罰の恐れの中で行う事だったりしますが、それを善良な働きとは認められません。また、人間たちが悪であるにも関わらず、世界が完全に悪に偏らないのは、神が人間たちの悪を制しているからです。決して人間自らの徳のせいで、世界が平和ではないのです。

---

03 それゆえ自然な人は、新生が必要です。

04 このような聖書的教えに反対する理論があります。ペラギウス、反-ペラギウス。そして、アルミニアン主義です。彼らは、人間が罪によってある程度は弱まったけど十分、自分が信じるべき必要性を認識できる能力があると主張します。それで彼らは神が人間自ら信じるように助けられれば（mere assisting grace）できると考えます。このような偽りの原因は、結局、傲慢と自己愛、罪の性質に対する無知と聖さについて無知のゆえ起因します。

③ 人間は、自分がこれほど完全に腐敗されていて、悪だということを知る以前までは救いの必要性を認識できません。また、自分の腐敗性を悟ったとしても自らの力で自分を改善できたり、改革することもできません。本性自体が腐敗されているから能力がないのです。それにも関わらず、人々は、自分を改革できたかのように話し、それによって、自らの義に陥ったりもします（エレミヤ 13:23、イザヤ 57:10, 12、黙 3:17）。しかしこれは、自らを欺瞞することに過ぎないです。

また、ある人は、教育を通して人間の気質変化を追求します。ある程度の外的効果はあり得ますが、人間の本性は変えられません。ならば、自分の腐敗性と無能、悪に慣れ親しんでいる意志を正しく悟るなら、謙遜になるしかないのです。そして、自分を信頼できないことも知るようになります。その上、自分のそのような悲惨な状態から救われることを渴望するようになるのです（ロマ 7:24）。

④ 人間は、このように全的に腐敗している自分を変えたり、改革することができません。罪を犯すまいとしても、やはり罪の中にいる自分を発見するだけです。人間の腐敗された本性を変えられるのは、ただ、聖霊の御業による新生、あるいは、新しく生まれることを通しての本性の変化以外はありません。

新生とは、神の御言葉の種が心と霊に落ち、聖霊の御業によって神の形が更新され、新しい神的な光と、生命を得ることを示します。新生によって、罪人に働いていた罪の力は打ち砕かれ、神の御心を行える新しい力を頂けるのです（テトス 3:5、Ⅱコリント 4:6、エペソ 2:5, 10、エレミヤ 31:33-34, 32:40、エゼキエル 36:26-27）。ですから善を行い、悪に打ち勝てるためには、必ず、新生が必要なのです。

⑤ 自分の無能を悟るのが重要です。私たちは、神の命令なされた戒めを、私たち自身の力で全部守り行うことができないと考えるなら、私たちの無能を知

ることができます。実際的に、そして経験的に、自分は善を行える能力がないことを悟ることです。そうした時に、新生の必要性を認識することができます。キリストは、明確に新生の必要性について強調なさいました（ヨハネ3:1-8）が、今日の教会は、新生の必要性の代わりに、人間の意志によって新しく生まれると強調します。

このような伝道方式では、あなたの回心をこれ以上、後回ししてはならないと要請します。それはまるで、自分自らを回心させられると信じるからですが、聖書から離れた教えです。このような伝道メッセージや方式は、結局、聖霊さまがその靈魂の性質を変化させる御業を省略させてしまいます。従って、自分の意志でイエスを信じると言うものの、靈的性質には変化がないので、結局、決心が弱まったり無くなってしまえば、放棄する者になるか、名目上の信者として、ただ宗教生活をするようになるでしょう。それゆえ、新生の必要性を今の時代に強調すべきです。実際に新生しなければ、神の国に入ることができないので、この教えは重要です。